

## 例 言

1. 本書は、奈良市が昭和48年度の国庫金を受託して実施した平城京朱雀大路発掘調査の報告書である。
2. 本書には、朱雀大路発掘調査と関連して実施した予備調査—「遺存地割・地名による平城京の復原調査」の報告と、「航空写真による朱雀大路の調査」の結果もあわせて収録した。さらに朱雀大路関連遺跡として奈良市東九条町所在前川遺跡の発掘調査結果も併録した。
3. 発掘調査については、奈良国立文化財研究所があたり、遺存地割・地名による平城京の復原調査については、京都大学文学部教授岸俊男が主としてこれにあたった。
4. 遺構の実測はヘリコプターによる空中撮影でおこない、発掘区全域にわたり50分の1の実測図を作成した。PLAN—2の遺構実測図は、これをもとにして作成したものである。
5. 報告書の作成には、調査員全員があたり、全体の討議をもとにそれぞれ分担執筆した。なお、文末に執筆者名を記し分担を明らかにした。
6. 遺構・遺物の写真は佃幹雄が撮影し、図版の作成には渡辺衆芳・藤村礼子の助力があった。航空写真についてはアジア航測株式会社の協力を得た。
7. 本書では、写真・実測図・拓本に共通する遺物番号をつけ、本文中もこの番号をもちいた。
8. 本書の編集には、黒崎直があたった。